



編集後記

2025年は、大阪・関西万博の開催やMLBでの日本人選手の活躍など、明るい話題が注目を浴びました。一方で、夏の記録的な高温や少雨、イスラエルのイラン攻撃、トランプ大統領による経済政策など、世界情勢の不安定さも際立った一年でした。

1月には埼玉県八潮市の県道交差点で、道路が陥没しトラックが転落する事故がありました。陥没は下水道管の破損が原因とみられ、軟弱な地盤や雨水が流れこんだことによる陥没範囲の拡大で被害が大きくなったため、復旧には数年かかるといわれています。

10月には自民党の高市早苗総裁が、女性初の第104代首相に指名されました。総裁選選出後の「働いてx5回」発言では、新語・流行語大賞を受賞しました。一方、台湾有事をめぐる発言では日中関係の冷え込みも懸念されています。

特集では、「3次元地盤モデル」をテーマに置き、基礎知識から始まり、道路、橋梁、地下構造物、複雑な地盤、地すべりなどの設計・施工に先立ち、極めて重要な知見が得られる事例をあげております。

特別寄稿では、小山真人静岡大学名誉教授・静岡大学防災総合センター客員教授から富士山の噴火対策の「ハザードマップ・避難計画・降灰対策・事業継続計画の現状と課題」についてご寄稿していただきました。

散文は、シリーズ化しております中部地方の博物館・資料館の紹介をいたしました。中部地方に点在するさまざまな博物館や資料館を順次、紹介していく企画です。今回は、静岡県富士山世界遺産センターの学芸課小林淳教授から「火山展示の充実に向けた取り組

みと企画展などを通じた火山の魅力と防災教育の発信」について、ご寄稿いただきました。

中部地整との意見交換会は、通常どおり全面対面式で開催され、真摯で活発な意見交換が行われました。その後の懇談会においても相互に忌憚のない意見交換ができたのではないかと思います。

その他にも、例年どおり「中部ミニフォーラム」の優秀論文、「常設委員会・WG報告」、「県支部活動報告」を掲載しました。これらの報告が当協会の認知度のさらなる向上につながれば幸いです。

最後に、本号への寄稿や連絡会・報告にご協力いただきました方々に改めて感謝申し上げますとともに、「土と岩」のさらなる充実につなげるために読者アンケートのご回答をお願い申し上げます。また、誌面編集の都合により各執筆者様からの大変貴重な原稿を多少編集させていただいたことを、お詫び申し上げます。

編集委員会



一般社団法人

中部地質調査業協会「土と岩」No.74

発行：一般社団法人 中部地質調査業協会
〒461-0004
名古屋市東区葵三丁目 25 番 20 号
ニューコーポ千種橋 403 号
TEL 052-937-4606
FAX 052-937-4607

2026 年 4 月 1 日発行

企画：株式会社建通新聞社 中部支社
印刷：株式会社 グラックス・マツバラ